

2016年の取組み

前年後半に申請していた中央共同募金会（赤い羽根）のボラサポ助成金を得ることができた。

<東日本復興支援実行委員会>

第1回委員会は5月18日に開催、委員会の名称を地域限定にしない名称にしたいと検討したが、確定に至らなかった。

1. 秋のバザーについて府中つながりフェスタは世話役の学生が農工大を離れたこともあり、小金井一か所で実施することにした。委員の負担軽減につなげた。

2. バザーそのものを楽しめるように準備を重ね、当日は晴天にも恵まれ成果をあげることができた。

<南相馬支援グループ>

中央共同募金会のボラサポ助成金は2015年の活動実績を踏まえての申請であったが、

①受領確定が1月で年度の途中であったこと

②共に活動してきた学生、研究者の活動環境に変化があったこと

③相農高担当の持地先生が異動で後任教員との協同作業ができなくなったこと

などいくつかの要素がからみ、ほぼ友の会単独の活動になったため申請した活動計画事項を満たすことは出来なかったが、2015年後半からの助成期間だったので、報告書には十分な活動実績を書くことができた。全国規模の募金による助成金であるため、毎月の活動報告と会計管理は担当者の負担になった

（NPOなどでは専従職員が担う業務）

南相馬支援活動は大学の博物館友の会として、学生・研究者とともにユニークな活動を展開できたことを改めて実感できた。グループ役員内の意見で今後は助成金に頼らない自己資金の範囲で支援を続けていくことになり、継続事業以外に新たな活動はしない、現地からの要請に応じて活動する等の決めごとがなされた。

<南相馬での活動>

第1回 2016年3月25日

・2016年度計画のため関係者訪問

第2回 2016年4月12～13日

・鹿島区の藍染めサークル「縫い絞り学習会」

第3回 2016年5月28～29日

・相馬農業高校で田植え

（大地震と原発被災のあと、農業高校なのに田植えが出来ない状態が続いていたが、やっと田植えができる喜びが爆発した。

高校生40名を含めて総勢100名の参加であった）

第4回 2016年6月7～8日

・鹿島区の藍染めサークル「縫い絞り学習会」

・自立研修所「ビーンズ」藍を植える

・小高地区訪問「特定非営利活動法人 つながっぺ 南相馬」

第5回 2016年7月2～3日

・赤い屋根工房（鹿島区農家民宿組合が共同で立ち上げた工房）

・南相馬市博物館

・南相馬市立中央図書館

第6回 2016年8月2～3日：藍の生葉染

・農家民宿オーナー指導

・赤い屋根工房

・自立研修所「ビーンズ」

第7回 2016年9月13～14日

・鹿島区の藍染めサークル「縫い絞り学習会」

第8回 2016年10月19～20日

・鹿島区の綿作業「紡いだ糸でフレーム織」

第9回 2016年12月10～11日

・鹿島区公民館でしめ縄講座

・赤い屋根工房で鶏を模したお正月飾り

<活動の成果>

【藍栽培と藍染】

2013春、藍の苗と種を持参し藍栽培の取組を始め、半信半疑の地元の皆様がはじめて藍の葉で生葉染をした時の驚きと喜びに溢れた瞬間から、藍仕事が軌道に乗った。青い空に染めた布を広げて、下を向いていた心も一緒に上を向いて以来、その広がりには予想以上である。鹿島区の藍染めサークルは参加者も増え、縫い絞り学習会で継続的に技術向上に努め、染の楽しみと作品販売、農家民宿では農業体験の代わりに藍染体験を提供するまでになった。販売は作品の生産者としての責任も伴う。商品価値のある作品に育てられるか。また藍の葉を商品販売することも視野にいれ藍栽培の将来を見据えた展開をする時期にきている。

【わら工芸】

野馬追行事の盛んな地域であり”わらの馬”作りが大いに歓迎され、毎年講座がもたれるようになった。しめ縄作りには地元のわらを用意して欲しいと当会からの要望に応じて、稲作解禁前に稲栽培に取組み 2016 年にはようやくわら細工に適したわらができた。馬作りにもわらを提供できるとのこと。毎年参加される方の中から指導役が育っているので、地元の方と共同で運営する仕組みを作りたい。

【綿と絹】

どちらも 10 年計画の覚悟で臨んでいる。楽しみの領域にはなっているが、工芸技能の習得には時間をかけた積み重ねが必要だと告げてきた。養蚕をして繭から糸をひき、その糸で織る仕事で生活が成り立つまでの合間に、お土産品を工夫している。当事者がたいへん熱心であり、当会以外の支援者も多く将来が楽しみである。気長に支援を続けたい。



＜助成金授与者の「赤い羽根」寄付者へのメッセージ＞

当会が支援に赴いた南相馬市は津波と、原発被災の二重苦を負っている地域です。2016 年 7 月に避難解除になった小高区でも帰還した元住民は多くありません。解除前から帰還を見ずえた復興活動に取り組んでいる方々も大勢います。まず生活基盤を支える産業の復活、そして新たな産業創生へ、本当の復興活動はこれからです。5 年を経て、支援ももういいだろうという声も聞こえますが、寄り添い支援を続けることはその土地に生きる方々にとって力になります。

基金をお寄せくださった皆様のお心を、当会を通してお届けできたか至らない活動でしたが、ご支援感謝申し上げます。

2016 年度 活動記録図

近況報告



去る2月28日(土)、飯坂温泉ホテル聚楽にて、県授産事業振興会による「新商品開発コンクール」が開催され、非食品部門の金賞をいただきました。東日本大震災をきっかけに東京農工大「友の会」の方が、南相馬に元気になってもらいたいと、地域の「女性サークル」や農業高校に藍苗の育成から、収穫、染の技術までを伝える支援をしていました。数年前、ビーンズもお声かけいただき、プランターで苗を育てましたがうまくいかず、そんな状況の中、発酵藍建ての染め液を作っている地元の方を紹介していただき、化学薬品を使用せず糸を染めてもらいました。その糸を感性豊かなビーンズの研修生が織り上げ、1つの製品が生まれ、結果地域とのつながり、地球にも肌にも優しい点、デザイン性を評価していただき、このような賞をいただくことができ、大変うれしく思います。ありがとうございました。

(所長 北畑 尚子)

支援が実り、嬉しいお便りです

自立研修所ビーンズの報告誌より



5月田植え 相農高で



わらの馬づくり 博物館で



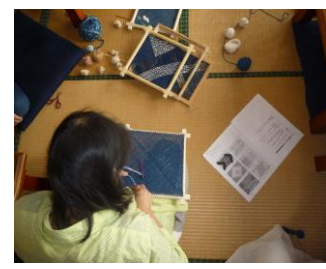
縫い絞り学習会 公民館で



①「わら馬づくり」赤い屋根工房で



②「夏の生葉染」赤い屋根工房



綿糸でフレーム織